

4. 「A 人権問題に関する生活態度スコア」別分析

(1) 人権に対する関心度 (問1)

人権問題に関する生活態度スコアが高いグループでは、41.0%が人権問題に「関心がある」としており、「少し関心がある」を加えると80%を超えるのに対して、「低」グループでは「関心がある」の合計は50%にみたく、「無回答・不明」が18.5%もあり、市民の人権問題に関する生活態度スコアと人権問題への関心度は強い相関関係を示している。

【第1表】

『あなたは「人権」について関心がありますか。』(問1)

【第1表 人権問題に関する生活態度スコア別 人権に対する関心度】

(上段:人、下段:%)

	関心がある	少し関心がある	あまり関心がない	関心がない	不明・無回答
高 N=173	71 41.0%	68 39.3%	22 12.7%	2 1.2%	10 5.8%
中 N=370	90 24.3%	163 44.1%	77 20.8%	16 4.3%	24 6.5%
低 N=173	27 15.6%	51 29.5%	53 30.6%	10 5.8%	32 18.5%
総計 N=716	188 26.3%	282 39.4%	152 21.2%	28 3.9%	66 9.2%

(2) 大阪市が取り組んでいる人権が尊重されるまちづくりに対する評価 (問3)

「大阪市では、市民一人ひとりの人権が尊重されている」と思うかについては、「低」グループの「そうは思わない」がやや多いが、人権問題に関する生活態度スコアによる差はほとんど認められない。【第2表】

『大阪市では、「大阪市人権尊重の社会づくり条例」にもとづき、多様な取組みを進めています。あなたは、今の大阪市は市民一人ひとりの人権が尊重されているまちであると思いますか。』(問3)

【第2表 人権問題に関する生活態度スコア別 大阪市は人権が尊重されているまちであるか】

【第2表】 (上段:人、下段:%)

	そう思う	どちらかという	どちらかと思わない	そう思わない	不明・無回答
高 N=173	13 7.5%	64 37.0%	68 39.3%	18 10.4%	10 5.8%
中 N=370	36 9.7%	132 35.7%	119 32.2%	47 12.7%	36 9.7%
低 N=173	17 9.8%	53 30.6%	39 22.5%	36 20.8%	28 16.2%
総計 N=716	66 9.2%	249 34.8%	226 31.6%	101 14.1%	74 10.3%

(3) 差別に関する基本的な認識 (問4)

差別や差別に関わる問題の解決について、積極的／消極的な意見に対する回答者の態度・意識を聞いた問4の(1)～(12)の質問のうち、「差別は、人間として恥ずべき行為だ」、「あらゆる差別をなくすために、行政は努力する必要がある」、「差別を受けてきた人に対しては、格差をなくすために行政の支援が必要だ」、「差別は法律で禁止する必要がある」、「差別されている人の話をきちんと聴く必要がある」、「差別問題に無関心な人にも、差別問題についてきちんと理解してもらうことが必要である」など、差別や差別に関わる問題の解決に積極的な意見については、人権問題に関する生活態度スコアが高いグループでは、「そう思う」と回答した割合がいずれも「中」「低」グループよりかなり大きくなっており、強い相関関係が認められる。他方、「差別は世の中に必要なときもある」、「差別されている人は、まず、自分たちが世の中に差別されないように努力することが必要だ」、「差別に対して抗議や反対をすることによって、より問題が解決しにくくなることが多い」、「どのような手段を講じても、差別を完全になくすことは無理だ」、「差別だという訴えを、いちいち取り上げていたらきりがない」、「差別の原因には、差別されている人の側に問題があることも多い」など、差別や差別に関わる問題の解決について消極的な意見については、人権問題に関する生活態度スコアが低いグループの「そう思う」が「中」や「高」グループよりもかなり多くなっており、かなり強い逆相関関係が認められる。【第3表】

『一般的に「差別」というものについて、あなたはどのようなお考えをお持ちですか。次の(1)～(12)のすべての項目についてお答えください。』(問4)

【第3表 人権問題に関する生活態度スコア別 差別に関する基本的な認識】

		(上段:人、下段:%)					
		そう 思う	い ど ち ら か と 思 い ま す	い ど ち ら か と 思 わ な い	い そ う 思 わ な い	わ か ら な い	無 回 答 ・ 明 確
(1)差別は、人間として恥ずべき行為だ	高 N=173	122 70.5%	36 20.8%	1 0.6%	1 0.6%	5 2.9%	8 4.6%
	中 N=370	187 50.5%	139 37.6%	14 3.8%	5 1.4%	10 2.7%	15 4.1%
	低 N=173	57 32.9%	60 34.7%	20 11.6%	15 8.7%	8 4.6%	13 7.5%
	総計 N=716	366 51.1%	235 32.8%	35 4.9%	21 2.9%	23 3.2%	36 5.0%
	高 N=173	6 3.5%	11 6.4%	30 17.3%	103 59.5%	14 8.1%	9 5.2%
(2)差別は世の中に必要なときもある	中 N=370	30 8.1%	84 22.7%	65 17.6%	141 38.1%	35 9.5%	15 4.1%
	低 N=173	26 15.0%	52 30.1%	26 15.0%	35 20.2%	20 11.6%	14 8.1%
	総計 N=716	62 8.7%	147 20.5%	121 16.9%	279 39.0%	69 9.6%	38 5.3%
	高 N=173	122 70.5%	28 16.2%	2 1.2%	5 2.9%	6 3.5%	10 5.8%
	中 N=370	182 49.2%	121 32.7%	19 5.1%	7 1.9%	23 6.2%	18 4.9%
(3)あらゆる差別をなくすために、行政は努力する必要がある	低 N=173	61 35.3%	50 28.9%	23 13.3%	15 8.7%	9 5.2%	15 8.7%
	総計 N=716	365 51.0%	199 27.8%	44 6.1%	27 3.8%	38 5.3%	43 6.0%

		そう 思う	思 い ど え ば そ う か と	思 い ど え ば そ う か と	い そ う 思 わ な い	わ か ら な い	無 不 明 回 答 ・
(4)差別されている人は、まず、自分たちが世の中に差別されないよう努力することが必要だ	高 N=173	34 19.7%	44 25.4%	35 20.2%	39 22.5%	13 7.5%	8 4.6%
	中 N=370	95 25.7%	115 31.1%	65 17.6%	46 12.4%	35 9.5%	14 3.8%
	低 N=173	55 31.8%	62 35.8%	17 9.8%	13 7.5%	12 6.9%	14 8.1%
	総計 N=716	184 25.7%	221 30.9%	117 16.3%	98 13.7%	60 8.4%	36 5.0%
(5)差別を受けてきた人に対しては、格差をなくすために行政の支援が必要だ	高 N=173	71 41.0%	56 32.4%	17 9.8%	7 4.0%	13 7.5%	9 5.2%
	中 N=370	98 26.5%	137 37.0%	52 14.1%	36 9.7%	31 8.4%	16 4.3%
	低 N=173	36 20.8%	54 31.2%	25 14.5%	31 17.9%	14 8.1%	13 7.5%
	総計 N=716	205 28.6%	247 34.5%	94 13.1%	74 10.3%	58 8.1%	38 5.3%
(6)差別に対して抗議や反対をすることによって、より問題が解決しにくくなることが多い	高 N=173	32 18.5%	50 28.9%	25 14.5%	32 18.5%	24 13.9%	10 5.8%
	中 N=370	64 17.3%	106 28.6%	66 17.8%	48 13.0%	71 19.2%	15 4.1%
	低 N=173	46 26.6%	48 27.7%	14 8.1%	20 11.6%	30 17.3%	15 8.7%
	総計 N=716	142 19.8%	204 28.5%	105 14.7%	100 14.0%	125 17.5%	40 5.6%
(7)差別は法律で禁止する必要がある	高 N=173	58 33.5%	44 25.4%	20 11.6%	20 11.6%	23 13.3%	8 4.6%
	中 N=370	68 18.4%	104 28.1%	69 18.6%	64 17.3%	50 13.5%	15 4.1%
	低 N=173	35 20.2%	26 15.0%	29 16.8%	47 27.2%	22 12.7%	14 8.1%
	総計 N=716	161 22.5%	174 24.3%	118 16.5%	131 18.3%	95 13.3%	37 5.2%
(8)どのような手段を講じても、差別を完全になくすことは無理だ	高 N=173	54 31.2%	63 36.4%	16 9.2%	23 13.3%	9 5.2%	8 4.6%
	中 N=370	128 34.6%	144 38.9%	33 8.9%	29 7.8%	20 5.4%	16 4.3%
	低 N=173	84 48.6%	36 20.8%	12 6.9%	12 6.9%	14 8.1%	15 8.7%
	総計 N=716	266 37.2%	243 33.9%	61 8.5%	64 8.9%	43 6.0%	39 5.4%
(9)差別されている人の話をきちんと聴く必要がある	高 N=173	125 72.3%	25 14.5%	5 2.9%	1 0.6%	7 4.0%	10 5.8%
	中 N=370	213 57.6%	106 28.6%	12 3.2%	5 1.4%	20 5.4%	14 3.8%
	低 N=173	70 40.5%	58 33.5%	14 8.1%	6 3.5%	12 6.9%	13 7.5%
	総計 N=716	408 57.0%	189 26.4%	31 4.3%	12 1.7%	39 5.4%	37 5.2%
(10)差別だという訴えを、いちいち取り上げていたらきりがない	高 N=173	13 7.5%	27 15.6%	30 17.3%	85 49.1%	10 5.8%	8 4.6%
	中 N=370	47 12.7%	91 24.6%	79 21.4%	109 29.5%	26 7.0%	18 4.9%
	低 N=173	47 27.2%	56 32.4%	20 11.6%	22 12.7%	14 8.1%	14 8.1%
	総計 N=716	107 14.9%	174 24.3%	129 18.0%	216 30.2%	50 7.0%	40 5.6%
(11)差別問題に無関心な人にも、差別問題についてきちんと理解してもらわなければならない	高 N=173	111 64.2%	41 23.7%	1 0.6%	7 4.0%	4 2.3%	9 5.2%
	中 N=370	144 38.9%	136 36.8%	25 6.8%	23 6.2%	28 7.6%	14 3.8%
	低 N=173	51 29.5%	50 28.9%	22 12.7%	19 11.0%	17 9.8%	14 8.1%
	総計 N=716	306 42.7%	227 31.7%	48 6.7%	49 6.8%	49 6.8%	37 5.2%
(12)差別の原因には、差別されている人の側に問題があることも多い	高 N=173	16 9.2%	33 19.1%	45 26.0%	41 23.7%	29 16.8%	9 5.2%
	中 N=370	43 11.6%	128 34.6%	85 23.0%	46 12.4%	54 14.6%	14 3.8%
	低 N=173	36 20.8%	61 35.3%	21 12.1%	17 9.8%	23 13.3%	15 8.7%
	総計 N=716	95 13.3%	222 31.0%	151 21.1%	104 14.5%	106 14.8%	38 5.3%

(4) 住宅を選ぶ際の忌避意識(問6)

住宅を購入したり、マンションを借りたりするなど、住宅を選ぶ際に、価格や立地条件などが希望にあっても、忌避するのはどのような場合かについてきた結果は、すべての項目で「避けると思う」と答えたものが人権問題に関する生活態度スコア「低」グループが極めて多く、次に「中」グループが多い。「高」グループでは「まったく気にしない」と答えたものが多く、人権問題に関する生活態度スコアと忌避意識は強い相関関係を示している。

また、「同和地区の区域内や同和地区と同じ区域になる」など、「同和地区」に関連する地域について「避けると思う」と答えたものが、人権問題に関する生活態度スコア「低」グループでは際立って多くなっている。【第4表】

『あなたは、住宅を購入したり、マンションを借りたりするなど、住宅を選ぶ際に、価格や立地条件などが希望にあっても、次のような物件の場合、避けることがありますか。』（問6）

【第4表 人権問題に関する生活態度スコア別 住宅を選ぶ際の忌避意識】

(1) 同和地区の区域内である

(上段:人、下段:%)

		避ける と思う	避け ると思 う	ど ち ら か と い え ば	ど ち ら か と い え ば	気 ま つ た く に し な い	わ か ら な い	無 回 答 ・ 不 明
(1) 同和地区の区域内である	高 N=173	26 15.0%	35 20.2%	30 17.3%	46 26.6%	28 16.2%	8 4.6%	
	中 N=370	110 29.7%	100 27.0%	49 13.2%	44 11.9%	57 15.4%	10 2.7%	
	低 N=173	75 43.4%	39 22.5%	13 7.5%	20 11.6%	15 8.7%	11 6.4%	
	総計 N=716	211 29.5%	174 24.3%	92 12.8%	110 15.4%	100 14.0%	29 4.1%	
	高 N=173	19 11.0%	24 13.9%	40 23.1%	58 33.5%	23 13.3%	9 5.2%	
(2) 小学校区が同和地区と同じ区域になる	中 N=370	70 18.9%	99 26.8%	66 17.8%	65 17.6%	56 15.1%	14 3.8%	
	低 N=173	57 32.9%	40 23.1%	24 13.9%	23 13.3%	16 9.2%	13 7.5%	
	総計 N=716	146 20.4%	163 22.8%	130 18.2%	146 20.4%	95 13.3%	36 5.0%	
	高 N=173	10 5.8%	38 22.0%	37 21.4%	60 34.7%	19 11.0%	9 5.2%	
	中 N=370	50 13.5%	86 23.2%	90 24.3%	89 24.1%	43 11.6%	12 3.2%	
(3) 近隣に低所得者など、生活が困難な人が多く住んでいる	低 N=173	39 22.5%	54 31.2%	30 17.3%	25 14.5%	13 7.5%	12 6.9%	
	総計 N=716	99 13.8%	178 24.9%	157 21.9%	174 24.3%	75 10.5%	33 4.6%	
	高 N=173	10 5.8%	29 16.8%	40 23.1%	69 39.9%	15 8.7%	10 5.8%	
	中 N=370	39 10.5%	105 28.4%	88 23.8%	88 23.8%	40 10.8%	10 2.7%	
	低 N=173	51 29.5%	50 28.9%	26 15.0%	22 12.7%	13 7.5%	11 6.4%	
(4) 近隣に外国籍住民が多く住んでいる	総計 N=716	100 14.0%	184 25.7%	154 21.5%	179 25.0%	68 9.5%	31 4.3%	
	高 N=173	19 11.0%	23 13.3%	42 24.3%	60 34.7%	18 10.4%	11 6.4%	
	中 N=370	48 13.0%	89 24.1%	96 25.9%	79 21.4%	47 12.7%	11 3.0%	
	低 N=173	40 23.1%	48 27.7%	30 17.3%	27 15.6%	16 9.2%	12 6.9%	
	総計 N=716	107 14.9%	160 22.3%	168 23.5%	166 23.2%	81 11.3%	34 4.7%	
(5) 近くに精神科病院や障害のある人の施設がある	高 N=173	19 11.0%	23 13.3%	42 24.3%	60 34.7%	18 10.4%	11 6.4%	
	中 N=370	48 13.0%	89 24.1%	96 25.9%	79 21.4%	47 12.7%	11 3.0%	
	低 N=173	40 23.1%	48 27.7%	30 17.3%	27 15.6%	16 9.2%	12 6.9%	
	総計 N=716	107 14.9%	160 22.3%	168 23.5%	166 23.2%	81 11.3%	34 4.7%	

(5) 人権問題に関する学習経験(問 12)

人権問題に関する学習経験では、人権問題に関する生活態度スコア「低」グループでは、「受けたことはない」と「不明・無回答」が「高」グループや「中」グループよりも大きく、「職場の研修で」「PTA など民間団体が主催する研修会で」あるいは「大学で」などでの受講経験者の割合は、「高」グループや「中」グループよりも相当小さくなっている。他の項目を含めて、人権問題に関する生活態度スコアと学習経験とは相関している。【第5表】

『あなたは、学校、職場及び地域で、人権問題についての学習を経験したことがありますか。』（問12）

【第5表 人権問題に関する生活態度スコア別 人権問題に関する学習経験】

(上段: 人、下段: %)

	小学校で受けた	中学校で受けた	高校で受けた	大学で受けた	市民対象の講座などで受けた	職場の研修で受けた	PTA や民間団体が主催する研修で受けた	その他	はつきりと覚えていない	受けたことはない	不明・無回答
高 N=173	58 33.5%	49 28.3%	31 17.9%	15 8.7%	14 8.1%	37 21.4%	14 8.1%	7 4.0%	31 17.9%	22 12.7%	11 6.4%
中 N=370	132 35.7%	100 27.0%	45 12.2%	19 5.1%	10 2.7%	46 12.4%	27 7.3%	13 3.5%	79 21.4%	68 18.4%	25 6.8%
低 N=173	50 28.9%	38 22.0%	19 11.0%	4 2.3%	6 3.5%	13 7.5%	2 1.2%	5 2.9%	28 16.2%	38 22.0%	22 12.7%
総計 N=716	240 33.5%	187 26.1%	95 13.3%	38 5.3%	30 4.2%	96 13.4%	43 6.0%	25 3.5%	138 19.3%	128 17.9%	58 8.1%

(6) 人権意識を高めるうえでとくに役立った学習(問 12-1)

人権問題に関する学習経験のある人に関連して、人権意識を高める上で役に立った学習機会(問 12-1)についてきた結果をみると、人権問題に関する生活態度スコア「高」グループでは「職場の研修」が、「中」グループでは「小学校で」や「中学校で」が比較的まとまっているが、「低」グループでは「役立ったものはない」とか「不明・無回答」が3割近くを占めている。【第6表】

『あなたの人権意識を高めるうえで特に役に立った(いちばん印象に残っている)ものはどれですか。』（問12-1）

【第6表 人権問題に関する生活態度スコア別 人権意識を高めるうえで特に役立った学習】

(上段: 人、下段: %)

	小学校で受けた	中学校で受けた	高校で受けた	大学で受けた	市民対象の講座などで受けた	職場の研修で受けた	PTA や民間団体が主催する研修で受けた	その他	役に立たなかった(印象に残っていない)	不明・無回答
高 N=109	25 22.9%	14 12.8%	11 10.1%	9 8.3%	9 8.3%	27 24.8%	8 7.3%	6 5.5%	6 5.5%	2 1.8%
中 N=203	72 35.5%	36 17.7%	16 7.9%	10 4.9%	8 3.9%	30 14.8%	21 10.3%	10 4.9%	15 7.4%	8 3.9%
低 N=90	24 26.7%	13 14.4%	9 10.0%	3 3.3%	5 5.6%	6 6.7%	3 3.3%	6 6.7%	16 17.8%	9 10.0%
総計 N=402	121 30.1%	63 15.7%	36 9.0%	22 5.5%	22 5.5%	63 15.7%	32 8.0%	22 5.5%	37 9.2%	19 4.7%

(7) 人権意識を高めるうえでとくに役立った学習分野（問 12-2〔分野〕）

さらに、人権意識を高める上で役立った学習がある人にテーマについて聞いたところ、3グループとも「同和問題」を挙げたものが断然多いが、「障がいのある人の人権問題」もかなりまとまってあげられている。また、「高」グループでは「女性をめぐる問題」とか「外国籍住民の人権問題」なども比較的多くあげられている。【第7表】

『あなたの人権意識を高めるうえで特に役に立った(いちばん印象に残っている)ものは、どのような分野でしたか。』（問12-2）

【第7表 人権問題に関する生活態度スコア別 人権意識を高めるうえで特に役立った学習分野】

(上段:人、下段:%)

	女性をめぐる問題	障がいのある人の人権問題	高齢者の人権問題	子どもの人権問題	同和問題	外国籍住民の人権問題	職業や雇用をめぐる人権問題	ハンセン病回復者の人権問題	その他	覚えていない、わからない	不明・無回答
高 N=102	16 15.7%	19 18.6%	6 5.9%	6 5.9%	65 63.7%	12 11.8%	7 6.9%	4 3.9%	2 2.0%	1 1.0%	1 1.0%
中 N=186	18 9.7%	41 22.0%	12 6.5%	12 6.5%	124 66.7%	17 9.1%	9 4.8%	9 4.8%	2 1.1%	8 4.3%	2 1.1%
低 N=73	5 6.8%	10 13.7%	5 6.8%	4 5.5%	45 61.6%	5 6.8%	7 9.6%	1 1.4%	1 1.4%	7 9.6%	2 2.7%
総計 N=361	39 10.8%	70 19.4%	23 6.4%	22 6.1%	234 64.8%	34 9.4%	23 6.4%	14 3.9%	5 1.4%	16 4.4%	5 1.4%

(8) 人権意識を高めるうえでとくに役立った学習形式（問 12-2〔形式〕）

同じく、人権意識を高める上で役に立った学習形式についてきいた結果をみると、人権問題に関する生活態度スコアが「中」や「低」グループでは、「教師や学識者による授業、講義・講演」を挙げたものが半数を超えているが、「高」グループではそれに加え、「映画・ビデオなどの映像媒体」や「差別を受けている当事者や、それを支援する団体等の職員による授業、講義・講演」などが比較的多くあげられている。【第8表】

『あなたの人権意識を高めるうえで特に役に立った(いちばん印象に残っている)ものは、どのような形式でしたか。』（問12-3）

【第8表 人権問題に関する生活態度スコア別 人権意識を高めるうえで特に役立った学習形式】

(上段:人、下段:%)

	教師や学識者による授業、講義・講演	差別を受けている当事者や、それを支援する団体等の職員による授業、講義・講演	映画・ビデオなどの映像媒体を用いたもの	グループ討論や模擬体験等の学習	スライドやおおさかやビルに関する施設の見学	人権問題に関する歴史をたどるフィールドワーク等の学習	その他	覚えていない、わからない	不明・無回答
高 N=102	47 46.1%	21 20.6%	35 34.3%	7 6.9%	4 3.9%	5 4.9%	5 4.9%	2 2.0%	1 1.0%
中 N=186	99 53.2%	28 15.1%	56 30.1%	6 3.2%	15 8.1%	9 4.8%	10 5.4%	13 7.0%	3 1.6%
低 N=73	38 52.1%	4 5.5%	18 24.7%	1 1.4%	2 2.7%	4 5.5%	2 2.7%	8 11.0%	4 5.5%
総計 N=361	184 51.0%	53 14.7%	109 30.2%	14 3.9%	21 5.8%	18 5.0%	17 4.7%	23 6.4%	8 2.2%

(9) 自分自身をどのように思っているか (問 13)

自己肯定感については、一連の質問群として、相関関係をみるべきであるから、「現在、自分の生活は充実している」、「自分には、ほかの人にはないよい点があると思う」、「自分は、人とうまくやっていける人間だと思う」、「自分は、困難なことでも、何とかやり遂げることができると思う」など、自己に対して肯定的/プラス思考の質問に対して「あてはまる」に 5 点、「ややあてはまる」に 4 点、「あまりあてはまらない」に 2 点、「あてはまらない」に 1 点、「わからない」「無回答」に 3 点を与え、他方、「最近、自分の生活は生きづらくなってきた」、「自分は、何をやってもだめな人間だと思うことがある」、「自分は、まわりの人から期待されていないと思うことがある」、「自分の人生は、どんなに努力しても、うまくいくとは限らないと思う」など、自己に対して否定的/マイナス思考の質問に対して「あてはまる」に 1 点、「ややあてはまる」に 2 点、「あまりあてはまらない」に 4 点、「あてはまらない」に 5 点、「わからない」「無回答」に 3 点を与えて、回答者一人ひとりについて合計点を算出すると、最大 40 点から最少 8 点のスコアを各回答者は得ることになる。このスコアは、自己肯定 (self-esteem) 感の強さの程度を示すと考えられるから、「自己肯定意識スコア」(表 4) と規定し、33 点以上を「高」、24～32 点を「中」、23 点以下を「低」として、人権問題に関する生活態度スコアとの関係を見たが、「高」グループでの自己肯定意識スコアが低いものが幾分少なくなっているが、2 つのスコア間に有意な関係は認められない。【第 9 表】

【表 4 自己肯定意識スコア分布と階層区分】

スコア分布	回答者数	カテゴリー			
8点	3	148 (20.7%)	低		
9点	0				
10点	0				
11点	1				
12点	8				
13点	4				
14点	7				
15点	6				
16点	11				
17点	6				
18点	10				
19点	14				
20点	10				
21点	17				
22点	25				
23点	26				
24点	84			382 (53.3%)	中
25点	37				
26点	33				
27点	33				
28点	38				
29点	39				
30点	36				
31点	38				
32点	44				
33点	28	186 (26.0%)	高		
34点	29				
35点	35				
36点	32				
37点	22				
38点	20				
39点	7				
40点	13				

『あなたは、自分自身のことをどのように思っていますか。』（問13）

【第9表 人権問題に関する生活態度スコア別 自分自身をどのように思っているか】

（上段：人、下段：％）

自己肯定感 人権意識	高	中	低
	N=186	N=382	N=148
高 N=173	41 23.7%	102 59.0%	30 17.3%
中 N=370	109 29.5%	182 49.2%	79 21.4%
低 N=173	36 20.8%	98 56.6%	39 22.5%
総計 N=716	186 26.0%	382 53.4%	148 20.7%

(10) 同和問題を知ったきっかけ(問15)

同和問題や被差別部落の問題をはじめて知ったきっかけについてきいた結果をみると、人権問題に関する生活態度スコアが「高」グループでは「父母や家族から聞いた」とか「近所の人から聞いた」など、身近なインフォーマルな人間関係のなかで知った割合がやや少なく、「学校の授業で教わった」が幾分多いが（これについては「中」グループと差なし）、全体としては、3つのグループの間に顕著な差異は認められない。【第10表】

『あなたが日本の社会において、同和問題や部落問題などと呼ばれている差別の問題があることをはじめて知ったのは、どういことがきっかけですか。』（問15）

【第10表 人権問題に関する生活態度スコア別 同和問題を知ったきっかけ】

（上段：人、下段：％）

	いた父母や家族から聞いた	た近所の人から聞いた	いた学校の友達から聞いた	わ学校の授業で教わった	た職場の人から聞いた	ど講演会、研修会など聞いた	報府県や市町村の広報誌などで読んだ	どで知ったテレビ、雑誌、映画、新聞、書籍	たインターネット	あ近くに同和地区があった	が問題に関する差別	自自分の親近で同和問題	その他	覚えていない	は、知らない	同和問題について	不明・無回答
高 N=173	36 20.8%	6 3.5%	8 4.6%	57 32.9%	12 6.9%	10 5.8%	7 4.0%	21 12.1%	1 0.6%	13 7.5%	6 3.5%	5 2.9%	3 1.7%	9 5.2%	8 4.6%		
中 N=370	106 28.6%	19 5.1%	18 4.9%	118 31.9%	23 6.2%	11 3.0%	10 2.7%	50 13.5%	1 0.3%	30 8.1%	4 1.1%	6 1.6%	15 4.1%	22 5.9%	14 3.8%		
低 N=173	47 27.2%	12 6.9%	13 7.5%	50 28.9%	9 5.2%	2 1.2%	5 2.9%	26 15.0%	2 1.2%	11 6.4%	6 3.5%	1 0.6%	12 6.9%	12 6.9%	12 6.9%		
総計 N=716	189 26.4%	37 5.2%	39 5.4%	225 31.4%	44 6.1%	23 3.2%	22 3.1%	97 13.5%	4 0.6%	54 7.5%	16 2.2%	12 1.7%	30 4.2%	43 6.0%	34 4.7%		

(11) 同和地区に対する差別意識の現状(問17)

同和地区や同和地区の人に対する差別意識が今でも残っているかについては、人権問題に関する生活態度スコアが「低」グループの場合、「高」や「中」グループに比べて、「差別意識は現在もあまり変わらず残っている」と回答したものが多く、「差別意識は薄まりつつあるが、まだ残っている」としたものが「高」、「中」よりかなり少ない。しかし、「高」、